生き抜く

南三陸町 人々の一年

マスコミに身を置く
取材チームが突きつけた、
静かなるアンチテーゼ。

僕がテレビのがんじがらめの制約に絶望して『観察映画』をインディペンデントで作り始めたときのように、毎日放送局内にも「本当はもっと自由に、このようなドキュメンタリーが作りたいのだ」という欲望が、マグマのように熱を帯び噴出先を求めているのではないだろうか。表現の欲求を爆発せんとするドキュメンタリストたちが、テレビ界のあちらこちらでゲリラ戦を始めているようにも見える。もしそうだとするならば、これはテレビ界にとっても、ドキュメンタリー界にとっても、正真正銘の「事件」であろう。しかもワクワクするような！

想田 和弘
（映画作家『演劇1』『演劇2』）

生き抜く人間の姿は美しい。娘さんを亡くした父親の深いしわが刻まれた顔が美しい。身内をすべて失って悲嘆にくれた顔が美しい。船を失ってしまった漁師たちが 16人共同で定置網漁を再開した時の表情が美しい…それらの美しさから、観客である僕らは貴重なものを受け取る。そのようにして、人々の営為が継がれていくことがほんとうの歴史だろう。見終わって「ありがとうございました」と感謝の言葉を言いたくなった。南三陸町の人々と、この映画を作った人々に。

金平 茂紀
（TBS『報道特集』キャスター）

ドキュメンタリーに定評のあるテレビ局は幾つかある。しかし、孤独なゲリラ戦よろしく、その制作者がバーンと撃たれたら一巻の終わりという、本当は、どの局もお寒い実態だ。そんな中、毎日放送は唯一組織的に取り組んできた〝ドキュメンタリーの雄〟である。テレビマンの表現をローカル放送から全国のスクリーンに解き放つ。私たちが希求するこの流れを、〝ドキュメンタリーの雄〟が、そして本作が、太くしてくれると確信している。

阿武野 勝彦
（東海テレビプロデューサー『死刑弁護人』『光発をとろう』『平成シンレンマ』）

苦しい人々の前で、何を取材すべきか、自分たちにできることなど何もないのではないか？その悩み、苦しみの中から戸惑いながらカメラをまわし、被災者と共に泣き、共に小さな復興への希望をつなぐ。その中からこの作品がうまれた。

海南 友子
（ドキュメンタリー映画監督『いわさきちひろ―27歳の旅立ち』）

映画『生き抜く』を観ながら、登場するお一人お一人の3月11日を追体験し、今も抱き続ける思いに触れた時、私はそこに巷で気安く使われている〝絆〟ではない絆そのものをまざまざと見た気がした。

纐纈 あや
（記録映像作家『祝の島』）

10/6（土） 13:50 ★ 公開2日目、10/7(日) 11:45回 上映後、森岡紀人監督、井本里士プロデューサー舞台挨拶予定
10/7（日）～10/12（金） 11:45
10/13（土）～10/19（金） 11:55
10/20（土）～10/26（金） 13:30 / 19:05
■ 当日一般 1,700 円、専門・大学生 1,400 円、中・高・シニア 1,000 円、小人 700 円

第七藝術劇場
大阪市淀川区十三本町1-7-27サンポードシティ6F
(阪急：梅田駅より電車で5分/十三駅下車西口より3分)
☎06-6302-2073

★ 前売券 1,400 円発売中！【第七藝術劇場窓口ほか、チケットぴあ（464-138）、ローソンチケット（52797）にて 10/5 まで販売いたします】

生き抜く

南三陸町 人々の一年

娘を引き揚げるため いち早く海に出た漁師
最愛の妻を亡くし幼子と再起を誓う夫
役場職員だった夫を探し続ける妻
目に目に絶望の念を深めていく女性
仮設住宅の抽選をめぐり言い争う人たち…

800時間の取材テープが物語る、
「命」を紡ぐ人々の素顔。

◎プロデューサー：井本里士 ◎監督：森岡紀人 www.mbs.jp/ikinuku-movie/
◎撮影：原 淳二, 古東千由, 大西史浩 ◎取材：森岡紀人, 上野由洋, 山口綾野 ◎編集：大川義弘
◎音楽：D flat ◎題字：平 大介 ◎録音：相良 希 ◎効果：松田勇一 ◎宣伝：福井亜砂子 ◎宣伝美術：東 學
◎配給宣伝協力：松井寛子, 中山和郎 ◎協力：TBC, TBS ◎制作・著作・配給：MBS 2012年/日本/HDカム/カラー/99分

MBS